

令和元(2019)年度江戸川大学国立公園研究所の 活動について(報告)

I 内外の国立公園、自然公園に関する資料の収集と整理

- 平成30年度より研究所内の所蔵資料のリストをHPで公開し、閲覧・貸出を行っている。また、引き続き寄贈された資料等の整理・分類作業を行っている。
- 元環境庁の故羽賀克己様の奥様より、貴重な図書をお譲りいただいた。
- 共栄大学教授の高橋進様より、国立公園雑誌や造園雑誌のバックナンバーをお譲りいただいた。その結果、国立公園雑誌は当所所蔵のものと合わせて、復刊第1号以降すべてそろえることとなった。

II 国立公園研究所特別講座の実施(駒木学習センターとの共同企画)

2019年度も継続して研究所員による駒木学習センター講座を開講し、すべて募集定員に達した。

1. 新・国立公園シリーズ「花が教える自然の不思議」

講 師：宮地信良 客員研究員

開催場所：学内講義及び日光観光ツアー

内 容(講座紹介より)： 美しい花は、国立公園の景観の要素として重要な位置を占めています。各地の花の群落にはシーズン中多くの人が訪れますが、今回は美しい花に秘められている様々な工夫や謎等、花の気持ちになってお話しします。

また、日光をはじめ、各地の花の見所についてもご紹介します。現地ツアーでは湯ノ湖畔のアズマシャクナゲなど日光の花の名所を訪れる予定です。

第1回：5月11日〔講義：学内〕花が教える自然の不思議

第2回：6月7日〔現地ツアー：日光〕日光の花の名所を訪ねる

2. 初級者向け野鳥の楽しみ方講座～奥日光で夏鳥のさえずりを楽しむ～

講 師：中島慶二 研究所長

開催場所：学内講義及び奥日光観光ツアー

内 容(講座紹介より)： 古くから日本三大探鳥地として有名な日光。今回の講座では、「日光の鳥」を取り上げます。5月の講義回では、日光で見られる鳥と環境の関係について学びます。また、森林の鳥の見つけ方は声の判別が重要になりますので、基本種の声と、キビタキやオオルリなど夏鳥の主役たちの鳥の声を学びます。

フィールド回は6月、野鳥たちの繁殖期の真っ最中に、奥日光で主に夏鳥を探して歩きます。亜高山針葉樹林、湖沼、湿原、河川、ブナ帯落葉広葉樹林と、多様な植生のそれぞれの環境に応じた野鳥が観察できます。

第1回：5月11日〔講義：学内〕奥日光にいる鳥たちと環境

第2回：6月8日〔フィールド回：奥日光〕奥日光で鳥たちのさえずりシャワーをあげよう

3. 新・国立公園シリーズ「動物と森」―植物、そして人間との軋轢―

講 師：宮地信良 客員研究員

開催場所：学内講義及び奥日光観光ツアー

内 容(講座紹介より)： 動物と森は、お互いに密接にかかわりながら生きています。森と言ってもその様子はさまざま、そのことが動物には有り難いのです。

本講座ではクマ、シカ、サルなどの動物と森との関係、そして今各地で起こっている動物と自然、あるいは人間との軋轢の問題を考えます。現地ツアーでは奥日光の森を巡ね、動物と自然とのせめぎ合いの場を実際に見てみましょう。

第1回：9月25日〔講義：学内〕日光に生きる動物の特性、森との関係を見て行きます。

また動物と人間の軋轢の原因について考えます。

第2回：10月11日〔現地ツアー：奥日光〕奥日光の西ノ湖周辺の森を訪ね、実際の動物の影響や森の変化を見てみましょう。湖畔の知られざる巨木にも驚かされます。

4. 初級者向け野鳥の楽しみ方～都市の中の河川に集う野鳥を楽しむ

講 師：中島慶二 研究所長

開催場所：学内講義及び都立水元公園

内 容(講座紹介より)： 身近な野生動物として親しまれている野鳥。美しい姿や声、かわいらしいしぐさなど、野鳥の観察は楽しくて飽きることがありません。また、野鳥観察は野鳥を含む生態系を学ぶことにもつながります。野鳥の見つけ方や識別にはある程度の慣れや知識が必要です。

この講座では、講義とフィールドの2部構成で、初級者向けに楽しく観察するコツを伝授します。講義では、野鳥観察のために必要な基礎知識や、野鳥を例に生物と環境の関係について学びます。フィールド回では今年は都立水元公園を歩きながら、水辺の自然や冬鳥を実際に観察します。

第1回：12月21日〔講義：学内〕野鳥観察・発見と識別のコツ

野鳥という生きものの生活や特徴を学び、双眼鏡の扱い方、環境の中でいかに早く見つけるか、そのコツについて伝授します。

第2回：1月11日〔フィールド回：都立水元公園〕野鳥観察・発見と識別のコツ

葛飾区にある都立水元公園で冬鳥を中心に野鳥を実際に観察します。カモ類、サギ類、セキレイ類、ホオジロ類、ツグミ類、カワウ、カワセミ、シメ、ジョウビタキなども見られるかもしれません。最初にカモやカモメ、サギなど大きな鳥で双眼鏡の扱いに慣れてから、小さい鳥探しにもチャレンジします。

III フォーラム・講演・大学駒木祭参加等による啓発活動

1 江戸川大学駒木祭(今号に別途詳細報告)

日 時：2019年11月2日(土)3日(日)

場 所：江戸川大学駒木キャンパス B棟603教室(6階)

主 催：現代社会学科・国立公園研究所

内 容：「日光国立公園がやってきた！」以下の各項目について実施した。

- ① 日光市土呂部地区で作られた茅ボッチの実物と説明パネルの展示
(B棟入口、展示室の2か所)
- ② 日光国立公園の風景写真パネル展示
- ③ 日光の動物に触ろう：自然公園財団による動物骨格や皮などの展示
- ④ シカ革クラフトワークショップ：自然公園財団による、日光産のシカ革を使ったアクセサリ製作
実演指導
- ⑤ 子どもパークレンジャーに変身！：環境省国立公園管理官の制服展示
(子供用・展示用のもの)
- ⑥ 公園計画図：戦後すぐの公園計画図と現在の公園計画図の展示
- ⑦ 外来生物ゲーム：外来生物の中から在来種を探し出すゲーム
- ⑧ 国立公園関係各種資料閲覧
- ⑨ DVD資料映像(日光国立公園の紹介)

2 中国国際交流センター日本国立公園視察団への研修講師

日 時：2019年12月13日(金)

場 所：江戸川大学N棟第一会議室

対 象：中国国際交流センター日本国立公園視察団(24名)

内 容：今回来校した日中交流センターの研修団の来日目的は、日本の国立公園の管理状況や管理体制を学ぶことである。東京で環境省などへの表敬訪問を終え、箱根や日光の国立公園を視察した研修団は、国立公園研究所のある江戸川大学も訪問した。

大学では中島研究所長による、「日本の国立公園制度史の概要」と題した講演を行い、日本の国立公園の制度が始まった昭和初期から現在までの、国立公園の指定や管理の考え方の変遷について、逐次通訳を通じて2時間にわたって説明した。講演終了後も30分にわたり質疑応答があるなど、熱心な研修であった。

3 ウェブページによる普及啓発

江戸川大学のウェブページの中に国立公園研究所のコーナーを設け、随時更新しつつ資料公開を行っている。

IV 国立公園に関する研究等の実施

1 論文・論説・研究報告等(今号に掲載したもの)

(1) 油井正昭

大正から昭和にかけて内務省が行った国立公園候補地の調査と結果に関する論考

(2) 親泊素子

スウェーデンの国立公園制度の成立について～アドルフ・エリク・ノルデンショルドと北欧の自然保護～

(3) 宮地信良

現地報告・コロナ禍における自然ガイドの状況

(4) 中島慶二

我が国の国立公園利用計画制度に関する諸課題

(5) 佐藤秀樹

開発途上地域における環境NGO職員の自然環境保全をテーマとした事業計画づくりの課題と方向性に関する考察～オンライン上でのPCM手法を活用したバングラデシュでの事例調査から

2 雑誌「国立公園」への寄稿

雑誌「国立公園」通巻第772号(平成31年4月号)～第781号(令和2年3月号)まで、計10編を寄稿した(今号に転載したもの)

連載第 7回 平成31年4月号 営造物・地域制区分の海外の国立公園適用 伊藤太一

連載第 8回 令和元年5月号 自然公園法規制に対する地域住民の意識調査 及川 瞭

連載第 9回 同6月号 国立公園の多言語標識に関する一考察 親泊素子

連載第10回 同7月号 民有地と保護計画の関係について 中島慶二

連載第11回 同9月号 バングラデシュの世界自然遺産シュンドルボンにおける自然共生型地域づくり
佐藤秀樹

連載第12回 同10月号 木原啓吉先生の遺したもの 吉永明弘

連載第13回 同11月号 国立公園の定義とその課題 伊藤太一

連載第14回 同12月号 理想郷としての国立公園 土屋 薫

連載第15回 令和2年1月号 現行の公園計画制度の問題点 中島慶二

連載第16回 同3月号 保護地域の展開と定義 伊藤太一

V その他

1 年次報告の発行

国立公園研究所年次報告第4号を発行し、関係者へ配布した。(令和2年1月)

2 国立公園研究所調査研究スカラシップについて

平成31年4月から令和2年3月までの1年間については、種々の事情が重なって現代社会学科の海外研修が取りやめとなり、学生の貸与希望はなかった。

3 休暇村協会からの寄付と学生支援について

平成29年度末、一般財団法人休暇村協会から、国立公園に関する研究を推進している江戸川大学の教学の理念に賛同するとして、大学に対して100万円のご寄付を賜り、これを原資として、現代社会学科学生の研修旅行等への旅費支援(国内は5千円、海外は2万円を上限)を行っている。

しかしながら同様に、海外研修が取りやめとなったことなどから、助成実績はなかった。

4 自然公園財団との業務契約について

平成30年4月より、一般財団法人自然公園財団と、江戸川大学国立公園研究所の間で業務契約を結び、今年度は以下の業務を実施した。

業務内容：

- ① 自然公園財団出版物の監修(中島慶二研究所長による)
2020自然公園の手引き
国立公園雑誌編集委員会への参加

- ② 国立公園雑誌への定期寄稿(今号に転載したもの)

(国立公園研究所長 中島慶二)